

伊賀市社会事業協会 2007

2007年1月15日 第12号

発行者

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

理事長 西岡 時彦

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2

TEL 0595-21-5545

FAX 0595-23-6670

URL <http://www.ict.ne.jp/~u-s-j/ueno>

最後のひとり

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会

会長 森 下 達 也

はや六十余年前のことになりましたが、日本は国家として初めての大敗北を喫しました。日本の都市の大方は米軍機による空爆によって廃墟と化し、終戦直前に突如参戦したソ連軍に追われて女性や子供が大陸の曠野をさまよい、満州で捕虜になった六十万の日本軍兵士はシベリアでの強制労働へ移送されました。最終的に全戦没者の数は三百万に達するという正に致命的打撃をこうむったのでしたが、その後も外地に残されていた膨大な数の邦人や兵士の帰還など、戦後処理の苦難がつづいたことはご承知のとおりです。

それでも日本人は焼土を踏んで立ち上がり、日本を再生させました。まず掘立て小屋を建て、畑を打ち、物を作り、やがて輸出し、昭和三十年代半ばには、ほぼ復興を果たしていたと思います。そして昭和四十年代の終わりには、世界に冠たる経済大国を築いていたのです。世界史に刻まれるべき目覚ましい民族復活と言わねばなりません。復活に挑戦した日本人の殆どが、明治大正の生まれ、即ち戦前の風土と教育の中で育った人たちであったという事実も、今日の私たちが噛みしめておくべきことでしょう。

その後昭和から平成へと移ろう時代の中で、私たちは奇妙な事態に気付きはじめました。折角の繁栄を手に入れたのに、意外にもかなり多くの人々が心から幸福になったとは思っていないこと、いやむしろ不安と不満が社会に充満しているという事態にです。更に言えば、この国の未来を担うべき青少年の教育には行きづまり、地域社会と家族のきずなは切れ切れになり、合計特殊出生率は低下の一途を辿り、よく見れば繁栄どころか低い年取の中で人生の未来に希望をもてない人もかなりいるのではないか、ということでしょう。少々賢いと自負する、ヒトという生物の社会はむつかしいものです。元凶は物余りと驕りなのでしょうか、はたまた、格差の進行なのでしょうか。

大戦後の日本は、西側自由経済社会の一員としてスタート

しました。その選択は正しいことでしたが、往時企業人となつた私は、次のようなことを教えられました。「日本は、もとより市場の自由競争こそが社会の活力源であるという立場だが、アメリカの経済社会と同質ではない。日本の企業経営者は、日本流所得再分配システムの中で、アメリカのように巨万の富を得ることが出来なくとも、従業員共々よい仕事をしているという誇りをもっている。この連帯と調和こそが社会安定の基盤なのだ」と。嗚呼、時はくだつていつの間にかこのような見解は、「仲よしクラブ」や「護送船団方式」などという揶揄に置き換えられ、改革の標的ともなっています。あのホリエモン騒動も、この狭間に生じたことと言えるでしょう。何が真実よいかは歴史の証明に委ねるべきですが、私は、この国に生を享けたことを全ての人がよろこび、生き生きと人生を送り得ることが国を支え国を守る力だと考えれば、米国型社会より守旧的と言われても日本型社会を選択したいと考える者です。

近年進められてきた社会福祉基礎構造改革は、経済社会の競争原理を導入しつつ、福祉サービスの多様化効率化活性化を図ろうとする改革理念をもっていました。私は企業社会の出身者として、この思考過程はわかりすぎる程わかるつもりです。しかしどうか、イコールフットイングなどと軽々しく言わないでいただきたい。セーフティーネットの世界のことなのです。「多数者」や「強者」に軸足を置きがちな市場と、「最後のひとり」から目をはなすわけにはいかない福祉とは、接近したとしてもイコールにはなり得ません。手をさしのべるべき「最後のひとり」が視野から脱落した瞬間に、日本から「福祉先進国」という看板は外すべきなのではありませんか。



曾我宏三撮影「雪化粧の俳聖殿」



第6回往古梨まつり開催



11月3日文化の日、第6回往古梨まつりは見事なまでの秋晴れの下、総勢約600名におよぶ方々のご協力とご参加をいただき開催しました。前々回より雨天での開催が続いていたため、今回の晴天は私たちにとって何よりの喜びとなりました。

開会式に続き、混声合唱団「シュヴェスター&ハッピーメイト」の皆様によるコンサートを行ないました。参加者全員による合唱、手あそび、唱歌メドレーなど、そのやさしく澄み切ったハーモニーは参加者の心、テントを突き抜け真っ青な空に届いたことでしょう。

ご来賓、ご家族、ボランティアの皆様など、今回の往古梨まつりが、多くの笑顔と盛り上がりの中で開催されましたことに、心より感謝とお礼を申し上げます。



美しいハーモニーを奏でる
シュヴェスター&ハッピーメイトの皆様

梨ノ木園

クラブ活動「日頃の成果を発表

器楽クラブの皆様
の演奏に続いて民謡、詩吟、カラオケの各クラブの皆様は日頃の練習の成果を発表していただきました。ご利用者からは「緊張したけど、本当に気持ちよく歌えた」「練習の成果が出せてよかった」などの喜びの声がありました。



日頃の成果を披露する
器楽クラブの皆様

第一梨ノ木園

楽しかった午後の催し

午後の催しは、赤と黒の忍者姿に扮した職員による忍にん体操でスタート。会場にお集まりいただいた方々も一緒に体を動かして忍にん体操を楽しんでいただきました。軽快な音楽に合わせて一生懸命ボールを送って、クイズの回答者となった方は、協力し合って答えを考えていました。

最後は全員で「もみじ」の輪唱で大合唱。会場全体に笑顔があふれ、楽しい午後のひと時でした。

次に、園での生活や介護の状況について、スライドで紹介させていただきました。ご家族の方々は熱心に「園での子や介護の身がよく分かった」と喜んでいただきました。

お集まりいただいた皆様全員にプレゼントした、忍者をあしらった手作りのしおりは、思い出の一コマになったと思います。



忍者姿に扮した職員

老人デイサービスセンター

らくらく体操、缶積みゲームで盛り上がり

「長田老人クラブ」と「大野木ゆうゆうクラブ」の皆様をお招きし、らくらく体操と缶積みゲームを楽しんでいただきました。



缶積みゲームを楽しんで
いただきました

梨丘園

心は青春時代へ

梨丘園では、懐かしい歌声から始まりました。Feeling Memory と名づけたクラブ発表です。「白いブランコ」、「歌えパンパン」などいろいろな世代の曲とともにご利用者の方が演奏するタンバリンやレインスティックの音色を楽しみました。また、会場の皆様も口ずさみ、一緒に青春時代を思い出すひと時でした。

続いて、どっちがほんと!? O×クイズでは、職員力作のオリジナルクイズで盛り上がり、笑い声が絶えませんでした。



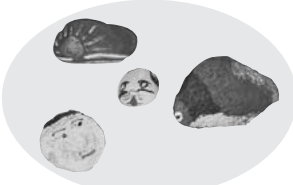
O×クイズで会場は大盛り上がり！

石ころアート

身体障害者療護施設 梨丘園

梨丘園では毎週月曜日の午後から、リハビリレクリエーション活動を楽しんでいます。

最近夢中になっているのは、石ころアートです。石ころアートは、川原に転がっている自然の石を使い、その形からイメージする物や動物などを絵の具やマジックを使って自由に描いていきます。大きな細長い石でイルカを描いたり白っぽい石を見てうさぎを想像したり、また、たくさんさんの絵の具を使ってオリジナルの絵を作り上げたりと、個性豊かな、素晴らしい作品がたくさんでき上がりました。



ご利用者の個性あふれる作品 ていねいに色をのせていくご利用者

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園

第二梨ノ木園敬老祝賀会

—凜として百歳—

敬老の日の9月18日、第二梨ノ木園では百歳の西平ヨシさん、同じく前川むめさん、八十八歳の清水十三さん、同じく角田好一さんはじめ、ご利用者の皆様の敬老をお祝いして、敬老祝賀会を行いました。

伊賀市より内保助役、健康福祉部橋本次長のご来席をいただき、ご家族も来園くださいました。内保助役からはお年寄りにあたたかい励ましのお言葉をいただきました。百歳をお迎えになられた方や米寿の皆様は、凜としたお姿でした。これからも第二梨ノ木園で元気な末永くお過ごしいただきたいと思います。



お元気に百歳を迎えられました

ほけんだより

インフルエンザについて〈予防と治療〉

①ウイルス：A・B・C型の3つの種類があり、特にA・B型は感染力と毒性が強力です。最近ではAソ連型（H1N1）A香港型（H3N2）そしてB型のウイルスによって、毎年規模の流行が繰り返されています。

②症状：1日から4日の潜伏期の後に、突然強い寒気と38度から40度の高熱、頭痛、全身の筋肉痛などが現れます。これらの強い全身症状は3日ほどで治まり、続いて強い風邪の症状（鼻水、咳、痰など）が1週間ほど続きます。

③感染したら：安静が第一です。十分な水分と栄養のある食事を摂り、かかりつけの医師に診てもらいましょう。発病して48時間以内なら大変よく効く治療薬が開発されています。

④予防：先進国では、ワクチンの無料接種が高齢者を中心にに行なわれ効果を上げています。日本でも高齢者は低料金で受けることができるようになりました。現在のワクチンは副作用が少なく、予防接種の中では最も安全性が高いものです。発病を防ぐ効果は約70%程度ですが、かかっても症状が軽く済み、肺炎などの重い合併症を起こす頻度は大幅に抑制されます。流行前の11月から12月に接種すると効果的です。

⑤新型インフルエンザについて：1918年世界で数千万人の死者を出したスペイン風邪の様な新型インフルエンザの出現の危険が迫っています。高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）が「鳥から鳥へ」感染し、世界中で猛威を振るっており、「鳥から人へ」の感染も起きています。1997年香港での発症に始まり2006年6月までに発症者224人（内127人死亡）となっています。これが突然変異して「人から人へ」の感染を起こすウイルスが出現すると、10日から1カ月程度で世界中に拡がり、世界の全人口の25%（日本で約2500万人）が罹患し、多数の死者を出すと予測されています。このため全世界で家禽類の衛生管理の徹底と、人への感染予防・治療対策が行なわれています。

梨ノ木診療所・医学博士 日根野 暁



温泉宿で談笑しながらくつろぐご利用者たち

もまた元気に来られるようにとの願いを込めて、皆揃って記念写真を取り、たくさんさんの思い出と共に梨ノ木園に帰りました。

老人デイサービスセンターなしのき

敬老週間、なつかしい紙芝居でおたのしみ

ご利用者の皆様に手作り紙芝居「食わず女房」他5作品をご覧いただきました。飴売りが客寄せのために演じていた紙芝居の様子を思い出していただこうと催したものです。拍子木を鳴らし、声色を使って紙芝居の物語を演じますと、ご利用者の皆様の中には、飴を舐める口も手も止まって、しばし物語の世界に引き込まれている方もお見えでした。紙芝居を見ながら育った方や、野や山で駆け回って大きくなった方など……、紙芝居を通して皆様の心ははるか子どもの頃を懐かしみ、時代（とき）がタイムスリップしたようでした。

最後は、「四季の歌」を全員が手話を交えて大合唱し、6日間の敬老週間を終えました。



▲楽しい紙芝居のあとの記念撮影

▼「三年ねたろう」を披露する職員



「秋の一泊温泉旅行」

山々の景色が色づき始めた11月13日・14日、猪の倉温泉「ふよう荘」へ出かけました。毎年、この旅行を楽しみに待ち望んでいる方、今回が初めての参加となる方、それぞれの思いをバスに乗せて猪の倉温泉へ、いざ出発！宿に到着すると、まずは温泉にゆっくりつかり、そしてお待ちかねの宴会。ごちそうを食べた後には、ご自慢のどを披露してくださる方や、お酒が入りうとうとされる方など、温泉での一夜を楽しめました。布団に入っても、なかなか寝つけず、まるで修学旅行のようでした。

天候にも恵まれ、2日目の朝、来年

盲養護老人ホーム 梨ノ木園

子どもまつフェスティバル2006 ～身近な素材であそぼう～



多くの来場者がつどったフェスティバルの会場

当協会立14保育園は、子どもたちの成長を保護者と共に喜び合い、併せて地域の方々に保育園をよりよく理解してもらいたいという思いで「作品展」を開催してきました。今年度は21回目を迎えることから「作品展」を、新たに「フェスティバル」と改め、身近な素材であそぼうよをテーマに、11月11日、ゆめドームうえの第一競技場において開催いたしました。

会場には子どもたちが、物を大切にしながらあそび本来の面白さに気づけるような、また素材と向き合う楽しさを実感できるようなあそびコーナーを設けました。棒状に丸めた新聞紙の間を、わらべうたの心



お父さんの背よりも高くなったよ

地よりリズムに併せてとび跳ねたり、ペットボトルをピンに見立てたボウリングあそびや、ジュースの空き缶を積み上げるアクロバットゲーム等々、また、日頃お世話になっている地域の方々とふれあいあそびコーナー、絵本ボランティアによる読み聞かせコーナーなどもありました。どのコーナーも子どもたちにはしばしばひとつのあそびに引き込まれ、なかなかそのあそびから離れられないという姿が見られ、ドーム内は終日和やかな雰囲気になっていました。

さらに、劇団バクによる「金のお・銀のお」の人形劇上演は、子どもたちの心に、道徳心や倫理感を培えたように思います。

来場者2,800名がつどい、フェスティバルは大成功に終えることができました。



手づくりのおもちゃであそぶ子どもたち

銀座ギャラリーにお店屋さん出店

11月1日から22日まで、銀座ギャラリー（上野忍町）に曙保育園3、4、5歳児の共同制作「お店屋さん」を展示しました。

毎年10月に入ると、徳居町の鬼蔵（おにぐら）には時々人の出入りがあり、戸のすき間から鬼の面が見えたりして、子どもたちの祭りへの期待が高まっています。今年も例年のように鬼行列を真似たり、お囃子を口ずさんだりとお祭りごっこが自然に始まりました。「お店屋さんも作ろう、今年もお店屋さんごっこをしよう」と言いながら、手裏剣、お面、たこ焼き、綿菓子等々が次々に作られお店に並べられていきました。どれも子どもたちのアイデア満載で、工夫された力作ばかりなので、一部を地域の方々にも見てもらうことにしたのです。早速、「見たよ、みんな買いたいものばかり」「上手にできていたよ、本物そっくり」との感想が寄せられました。

11月17日の老人クラブとの交流会で、待望のお店屋さんごっこをしました。まず、会長さんから昔の紙幣を見せてもらい、お金の大切さを教えていただきました。老人クラブの方々は、「子どもたちから元気もらった。薬を飲むより元気が出るわ」と目を細めて喜んでくださいました。

老人クラブの方にこまの回し方を教わりました



銀座ギャラリーの前で記念撮影

上野農業高校生と 紅花染めをしました

友生保育園では、上野農業高校の生徒の皆様に「紅花染め」を教わりました。きっかけは、朝顔の赤い色水の美しさに魅せられた子どもたちが、半紙に染めて残しておこうとしたことでした。ところが乾いてみると、染めるときの美しさとはかけ離れた茶色になっていました。そんながっかりした体験を日頃お世話になっている農業高校の先生にお話したところ「紅花染め」を教えていただくことになりました。染めてびっくり、橙色の紅花を使ったのに、ハンカチは鮮やかなピンク色に染まったのです。朝顔の赤色が茶色に、紅花の橙色がピンクにという不思議な感動を受けた子どもたちは、今後さらに自然への興味関心が増していくものと思います。



紅花染めの体験まっ最中

協会6番目の学童保育誕生

放課後児童クラブ

ネバーランド

放課後児童クラブ「ネバーランド」は11月1日、中瀬小学校1階の空き教室を改修してオープンしました。ルームでは宿題を終えてから、いろいろな遊びを楽しんでいます。利用児のもう1つの楽しみは、おやつがあることで、友だちと分けあったり比べあったりと、家庭的な雰囲気の中でいただくおやつは、特別の味がするようです。

ただ、年度途中の開所ということもあり利用児が少なく、もう少しお友だちが増えたらいいのになと思っています。



〒518-0809 伊賀市西明寺105番地
TEL・FAX 0595-23-0010



できあがったハンカチをみせる子どもたちと高校生

「老いも幼も 輝く目」

おさな
～お年寄りとの交流会より～

11月21日、みどり保育園で上野東部老人クラブの皆様42名と交流会を行いました。午前中は、手を取りあつての忍にん体操や玉入れ、果物がゴリレーなどで心地よい汗をかきました。

昼食の献立は、幸いお年寄りに好まれそうなぶり大根と金時豆の煮物でした。味付けにはお褒めの言葉を頂いたのですが、子どもたちにはどちらかというと好まれない献立でもあったようです。しかし、お年寄りにさりげなく言葉をかけてもらって



みんなで玉入れ



おばあちゃんの上でお手玉をならいました

いるうちに、自然と箸も進み食べ終えていました。
午後はお年寄りが、綱渡りをするこまを披露してくれ、お手玉、あや取りなどは子どもたちも一緒に楽しみました。
ふれあう時間に限りがあったのですが、お互いに寄り添い合い、話し合いながら心あたたまる交流ができたようです。今後もこのような交流を大切にしていききたいと思います。

杉本亜衣点字校正員 伊賀市立上野東小学校で講演

「無限の可能性に向かって」

11月21日、伊賀市立上野東小学校で上野点字図書館の杉本亜衣校正員が4年生132名に点字図書館の仕事やその役割について講演をしました。講演の後、視覚に障害をもつ杉本校正員に様々な質問があり「毎日自宅から職場まで徒歩で通勤していることについて、困っていることは何ですか」という問いに対して、「通い始めた頃は、不安なことが多かったのですが、実際にいろんなことに挑戦してみても、自分の可能性がわかるので、それは障害があってもなくても同じだと思います。何でも挑戦してみなければ、どんなことに不自由するのか、また自分に何ができるのかわからないですからね」と話しました。

そのほか白杖を使つての歩行を実演することで、視覚障害者の状況を理解してもらうこともでき、また、得意のピアノの演奏では、『世界で一つだけの花』等3曲を披露し、あたたかい拍手をいただきました。

これからも、視覚障害者に対する理解と認識を深めていく機会をつくり、自分たちのもっている可能性や挑戦することの大切さを伝えていきたいと思っています。



小学生を前に講演する杉本点字校正員

障がい者週間啓発事業にちなんだ作品展 かしの木ひろば

12月7日に、ジョイシティオークワで行なわれた「障がい者週間」啓発事業に、かしの木ひろばも参加させていただきました。

かしの木ひろばからは、さをり織、伊勢型紙、クラフトの展示をはじめ、ボランティアの方々と共に、カードケースや小銭入れ等のさをり織の小物や、ビーズストラップの即売を行ないました。

来場された多くの方に興味を持って作品を見ていただきました。啓発事業への参加はご利用者の方々の励みになり、地域の方々にかしの木ひろばを知っていただくよい機会となりました。



ご利用者の作品が並びました

ボランティアの皆様と上野天神祭

かしの木ひろば

10月24日と25日の2日間、ボランティアの方々といっしょに国指定重要無形民俗文化財に指定されている上野天神祭の神輿、鬼行列、だんじりの見物に出かけました。獅子に頭を噛んでももらったり、ひょうつき鬼がそばに寄ってきたり、楽しい悲鳴を上げながらの見物でした。だんじりの行列が小休止した時、ご利用者の皆様は出店をのぞき、それぞれの店の品々を見て回りました。楽しい秋の一日でした。



縁起物の獅子に頭を噛んでももらいました

ボランティアの集いを実施

上野点字図書館

上野点字図書館では、日ごろからご協力いただいている点訳・音訳ボランティアの皆様方の研修と親睦を兼ねてボランティアの集いを毎年秋に実施しています。今回は、11月30日に愛知県名古屋市内の「名古屋高等／地方裁判所」・「徳川美術館」・「トヨタテクノミュージアム産業技術記念館」を見学し、参加された皆様方に変な喜ばれました。特に裁判所では、名古屋高等裁判所第1号法廷において、裁判所員の熱心な説明を聞き、日ごろより裁判について疑問に感じていたこと等の様々な質問をすることができ、各々参加者にとって有意義な見学となりました。



豊田佐吉が発明した環状織機の前にて

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々

(平成18年7月～平成18年12月)

《個人》

— 敬称略・五十音順 —

有野 康昭、池澤 宗一、石原 京子、
稲垣紀代子、稲森 光子、井上 俊、
猪木 千里、今井友加里、上田 順子、
上田 甫、上谷 隆昭、上野タエ子、
上野 庸、太田 久子、大西 寿子、
大野 利江、岡森 明彦、岡森 金、
岡森昌理子、小川 茂子、小川 秀貴、
奥田 英夫、奥田やえ子、奥中 寛子、
川浪 玲子、北泉 優子、北出 悦子、
北寺 清子、小林ふじ智、桜井 慶、
佐々木聖子、澤山 正治、繁地佳代子、
島田 千恵、清水 栄子、清水 文外、
朱雀 文雄、須川きよ子、杉本ちえみ、
杉本 将、砂取 武、関 光子、
世古 秀次、曾我 京子、曾我 宏子、
竹島 和美、田中美代子、谷口よし子、
谷本 善、玉川 弘毅、玉置さよ子、
田山紗知子、塚本 實、塚本 初子、
富田 幸治、豊田 實、鳥井 恭子、
中川 定子、中井 克明、中出 潔己、
中西 泰夫、中野美智子、長町 尚裕、
中村 節子、中森 勇、中山 重男、
中山 洋美、西出 成子、西村喜代子、
西山 進、西山登志子、長谷川かよ子、
服部 明、服部 康祐、浜口 隆志、
原谷 順子、日根野 暁、平井 榮子、
広瀬 亮宗、福田三重子、福永 豊、
藤森 裕子、古川 純生、別所 法山、
星 周輔、堀池 貞巳、前川 悟、
前川 重孝、前川 光枝、前並 節子、
松坂 清俊、松永 清、松永 幸子、
松本 学、松山 周子、皆川 隆、
宮城洋一郎、森 喜良、森岡 佑子、
森下 栄一、森下 弘子、森田 満枝、
森田やえ子、森中 蒼子、森本 剛士、
矢倉 昌、保田 信治、山口 徳平、
山口 義美、山下 浩司、山添 稔、
山本 浜子、吉岡 正巳、吉川恵子

《団体》

— 敬称略・順不同 —

上野音訳グループのひの、上野音訳グループあい、
名張音訳グループだま、名張音訳グループあかり、

絵手紙いろは、絵本ボランティア ももこ、
にんじんクラブ、ボランティアグループあゆみ、
ボランティアグループミックスジュニア、
あけぼの学園高校、岡渡看護専門学校、
皇學館大学、長田小学校、日蓮学園高校、
三重保育園、社会福祉施設連絡会、
伊賀市民生委員児童委員連合会、
上野東部地区民生児童委員、大内地区、大湊地区、
大野木地区、桂地区、桑町自治会、土本木地区、
城西部地区民生児童委員、白檜地区、
しらさぎ地区民生児童委員、寺町自治会、
寺町地区民生児童委員、中瀬地区区長会、
長田公民館、長田地区住民自治協議会、
治田地区、花之木公民館、花之木児童福祉会、
花之木地区、古山市民センター、古山地区区長会、
古山地区民生児童委員、法花地区、二田公民館、
二田地区自治連絡協議会、南山城村、予野地区、
予野地区民生児童委員、
伊賀市上野老人クラブ連合会、
伊賀市老人クラブ連合会、上野東部老人クラブ、
大野木ゆうゆうクラブ、桂サロ、
神戸老人クラブ連合会女性部、
下友生地区老人クラブ、朝屋老人クラブ婦人部、
寺町老人会、徳居町老人クラブ、
長田老人クラブ連合会、福居町老人クラブ、
三重県長寿社会推進協力員連絡協議会、
ゆめが丘シアターの会、伊賀上野ライオンズクラブ、
伊賀市上野視覚障害者福祉会、
伊賀市更生保護女性会の会、上野支部、
上野ロータリークラブ、上野東ロータリークラブ、
シユウエスター&ハッピーメイト、
蕉門ホール「語り部塾」、白ゆり会、射手神社、
西蓮寺、常任寺、田守神社、平井神社、東宮商店、
伊賀北部農協花之木ふれあい店、
伊賀北部農協花之木ふれあい店、
伊賀北部農協古山ふれあい店、
今岡米穀店、
大内郵便局、近江屋、小川整備、小川モーターズ、
奥田理容店、欣栄堂、グリーンティー高尾、
合同印刷社、甲野屋、コーカ共同製茶、
サンシヨク、清水眼科、親和工務店、竹澤商店、
伊達商店、田山第一共同製茶工場、
田山南部共同製茶工場、田山北部共同製茶工場、
中京テレビ放送、名張屋製麺所、鍋本商店、
西尾デンキ、西澤精肉店、広瀬医院、
福田豊工務店、古山郵便局、マルソウ、
村脇電気、名張設備工業、森本整形外科医院、
八百市、米岡家具センター

法人内研修

幅広い見識を養うために

当法人では、施設種別ごとに研修組織を結成し、専門性を高めるためにさまざまな視点で研修会を実施しています。そのひとつに、全職員を対象とした『法人内研修』があります。今年度も「私たちの暮らしと銀行」や「藤堂藩の伊賀の重臣たち」など、バラエティーに富んだ内容で、研修会を企画、実施しています。この研修は、福祉分野のみならず、幅広く社会全体に目を向け見識を高めることにより、職員一人ひとりが自ら考え、行動できる力を養い、民間福祉事業を担うことのできる職員の養成と確保に努めることを目的にしています。これからも幅広い分野の研修を企画し、さらなる研修体制の充実を図りたいと考えています。

私たちの暮らしと銀行

平成18年10月4日
於伊賀市社会事業協会
株百五経済研究所
取締役 井上 俊一

講演する百五経済研究所取締役 井上俊一様

編集後記

昨年の秋から健康増進のためにウォーキングを始めました。いつものコースを歩いていると、暖冬でタンポポがけなげな小さい花を付け、ひっそりと咲いていました。地面に放射状に広がるロゼット葉は、春とは違い冬の寒さを避けるためだそうです。また、1m以上も地に根を張り、とても強い生命力を持っているのだそうです。

当協会の福祉事業も、タンポポのように伊賀の地に深くしっかりと根ざし、職員が丸となってそれぞれの分野で活躍させていただいております。今後も地域の皆様には選ばれるよう努力してまいりたいと思います。

新年を迎え、今年も編集委員一同魅力ある“2007”の紙面作りに励んでまいりたいと思いますので、ご指導くださいますようよろしくお願いいたします。

(編集子)

職員募集(正規/臨時採用)

当法人では、次の職種のスタッフを募集しています。
ご希望の方は、法人本部採用担当までご連絡下さい。

介護ヘルパー職、看護職、
保育職、栄養調理職

*勤務地：伊賀市内

*待遇：各種社会保険完備、交通費支給

*給与：法人給与規程による

*連絡先：(社)伊賀市社会事業協会

法人本部事務局

職員採用担当 0595-21-5545

施設案内

多くのボランティアに支えられて

上野点字図書館



上野点字図書館 全景

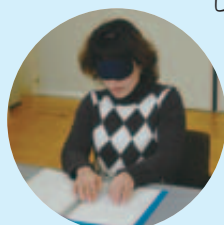
後、視覚障害者の福祉と文化の向上を目指して、点字・録音図書の製作、収集、貸出、点訳・音訳ボラン

点字は、1825年にフランスの盲人、ルイ・ブライユによって考案されました。このブライユ式六点点字を1890年に石川倉治が日本語の五十音に改めたものが、「日本の点字」の始まりです。

この点字は、わずか六つの点の組み合わせで、すべての文字、記号、数式、楽譜、外国語等の表現ができ、視覚障害者が自分自身の力で、自由に読み書きができる唯一の文字なのです。視覚障害者は、文字を自分自身で読みたいという、人間としての限らないまでの願望とともに、自分たちの唯一の文字である点字を愛してきました。いうならば点字は、視覚障害者の文化そのものです。

さて、上野点字図書館は昭和35年4月に、隣接する上野市（現・伊賀市）盲人ホームの図書室として発足し、昭和46年4月には、厚生省（現・厚生労働省）の認可を受けて、新たに開設いたしました。以後、視覚障害者の福祉と文化の向上を目指して、点字・録音図書の製作、収集、貸出、点訳・音訳ボラン

ティアの養成や各種相談業務等の事業を実施してまいりました。現在では、多くの点訳・音訳ボランティアの方々のご協力により、開館当時2、207冊であった点字図書は、19、000冊を超え、録音図書は、319巻から、現在では21、000巻を超えています。また、開館当初は行なっていなかった中途失明者に対する点字触読訓練や、ITの進歩に伴う視覚障害者に対するコンピューター技術習得のための講座を開いています。その他にも、地域の小学生の社会学習の一環として施設見学を受け入れ、学校教育活動にも積極的に参加協力しています。今後とも上野点字図書館は、地域に密着した視覚障害者の情報提供施設としての役割を認識し、



触読の訓練に励むご利用者

ボランティアの方々により制作された図書（左上：原図書 右上：点字図書）
下：録音図書（テープ、CD）

大変きれいになりました！

愛され続ける保育園であるために

地元の熱望により誕生した府中保育園は昭和50年4月、日本自転車振興会・三重県・上野市（現・伊賀市）の補助金を受けて、新築開園しました。以来30年、すっかり年を重ね、屋根や外壁からは雨水が浸透し、保育室内はシミによる汚れやクロスの剥がれが目立ちはじめ、抜本的な改修工事が必要となりました。そこでこの度、車両競技公益資金記念財団の助成により、屋根カラーベスト葺き替え工事、園舎外壁塗装工事、保育室3室クロス張替え工事を実施させていただき運びとなりました。美しく蘇った園舎は、おかげさまで大変好評です。さらに追加工事として、建てつけが悪くなっているサッシの交換修理と、園舎の顔とも言えるテラスの改修工事を施工する予定です。より快適な保育環境を整え、「いつまでも愛され続ける保育園でいたい」、そんな思いを胸に、これからも一層の保育の充実を図っていきたいと思います。

▲クロスを張り替え
美しくなった保育室

▼カラーベストの
葺き替え工事
をした屋根



当協会の施設

(定員)

1	盲養護老人ホーム 梨ノ木園	70人
2	特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園	50人
3	老人ショートステイ	20人
4	老人デイサービスセンター なしのき	
5	在宅介護支援センター なしのき	
6	梨ノ木診療所	
7	曙保育園	180人
8	睦保育園	90人
9	三田保育園	60人
10	中瀬城東保育園	115人
11	友生保育園	90人
12	花之木保育園	45人
13	予野保育園	45人
14	長田保育園	45人
15	古山保育園	45人
16	みどり保育園	150人
17	心身障害児療育施設 かしのみ園	
18	ひかり保育園	120人
19	みどり第二保育園	120人
20	府中保育園	90人
21	ゆめが丘保育所	200人
22	上野点字図書館	
23	伊賀市盲人ホーム	
24	障害福祉サービス事業 かしのみひろば	
25	障害者支援施設 梨丘園	20人
26	児童クラブ フレンズうえの	
27	児童クラブ キッズうえの	
28	児童クラブ ウイングうえの	
29	児童クラブ レインボーうえの	
30	児童クラブ 風の丘	
31	児童クラブ ネバーランド	
32	法人本部事務局	